

理事会・総会の日程が決まりました

既にメール・FAX で連絡しておりますとおり平成 25 年度第 1 回理事会・総会の開催日程が決まりました。会員の皆さまは、あらかじめスケジュールの確保をお願いします。

なお、議案等の詳細は 5 月中旬に連絡します。

開催日：平成 25 年 6 月 3 日（月）

理事会：14：00～15：00

総会：15：00～16：00（14：30 受付開始）

場所：北とぴあ（東京都北区）

ファーマーズ&キッズフェスタ出展者募集

11/9(土)、11/10(日)に J-PAO が構成団体として参加する第 4 回「ファーマーズ&キッズフェスタ 2013」が開催されます。

今年も全国のプロ農業者が集い「子供と農業をつなぐ架け橋」として都会の子供たちに元気なニッポン農業を発信します。

2 日間で 64 千人のお客様が来場（昨年実績）するこのイベントで、こだわりの農産物を販売してみたい方は、現在、出展者を募集中ですので J-PAO 根岸までお問い合わせ下さい。

*前回のファーマーズ&キッズフェスタの内容が公開されています。J-PAO ホームページのバナーをクリック下さい。

専門部会の動き（4 月分）

【東北農業復興プラン検討部会】

南相馬市におけるタマネギの試験栽培の状況報告と、4/11 の実地研修と今後の進め方について報告と意見交換を行いました。

タマネギの試験栽培については順調に育苗が進んでおり、土壌分析や放射線分析は行政などで対応可能な見込みです。現在、5～6 種類（非公開）の品種を育苗していて、定植が月末頃、収穫は夏頃、次回研修会は 6 月の見込みです。

【輸出】

輸出部会の取り組み内容をまとめたレポートと今後の専門部会のテーマについて協議しました。レポートは次回の企画運営委員会で提出することになりました。

また今後の専門部会において、どのようなテーマに取り組みたいか各自意見を持ちより討議しました。

【人材育成①】

昨年 1 年間の活動の成果と課題について検討を行いました。課題として、「J-PAO 研修農場制度」の認知度が低いこと、効果的な周知のためにホームページなどの工夫が必要などの意見がありました。

また、本年度の取組目標として、若手の農業経営者からのヒアリングを通じて、経営課題を把握し、J-PAO の特徴を活かした支援策を検討することとしました。

【人材育成②】

これまでの成果と今後の課題について協議を行いました。

トップマネジメントセミナーと、初めて実施した J-PAO セミナーの満足度が高かったことを確認しました。今後の課題としては、J-PAO 会員企業のポテンシャルやノウハウを生かしたセミナーを行いたいなどの意見が交わされました。

Facebook ページを開設しました

会員の皆さまとの情報共有と、J-PAO の活動を広く周知するため、本日 J-PAO の Facebook ページを公開しました。

<https://www.facebook.com/JPAO.JPAO.JPAO>

事務局に新メンバー 3 名加わる

4 月に事務局を退任した 2 名に替わり、新メンバーが 3 名加わりました。

○根岸 拓（コンサルタント）

寺西氏の後任として 4 月 15 日に着任しました。主に事務化支援、販売支援、人材育成を担当します。

○長谷川さち恵

細貝氏の後任として、着任しました。主に農業経営アドバイザー試験を担当します。

○佐瀬 明子

主に事務局経理、広報を担当します。

主な活動（4/2～4/30）

4/4 三島函南農業協同組合セミナー（後藤）

4/10 第 69 回企画運営委員会

4/12 三島函南農業協同組合セミナー（高田）

4/19 「しんくみ」5 月号原稿提出（高田）

往復書簡

今回からは、竹崎 修央氏（高知県、有竹崎農園）と当機構理事長の高木勇樹との往復書簡が始まります。

拝啓 高木 勇樹 様

桜も散りいろんな草花が咲き始め春が来た事を感じながら農作業しております。

今年は、高知での桜の開花が、全国一番にならなかったのが残念です。去年よりだいぶ桜の開花が早いように感じます。また、東京と開花時期も満開時期もほとんど変わらないように感じました。これも少し異常気象なのでしょうが。

先日久しぶりにJ・PAOの会（トップマネジメントセミナー）で高木様にお会いしました。お元気で変わりなくよかったです。

高知県では、早くも水稲の田植えが始まりました我が家でも田植えしております。家の本業はハウスでの茄子、ピーマン栽培がメインで、春になると収穫量も増えて忙しくなります。この時期は生姜の定植、田植え、果菜類の収穫といくら仕事をやっても終わらないくらいあります。また仕事以外にも子供の学校行事クラブ活動の世話などがあり、体がいくつも欲しいくらいです。

いくら忙しくても寝てるわけにはいかなかったので頑張るしかありませんが、最近年のせいか体が思うように動きません。それなら頭を使えばいいのですが頭もよくありません（笑）。

今農業をしていて若い頃のことを考えると昔があります。就農したての頃（二十五年前）は、あと十年したら農業は良くなると言われて農業を始めましたが、そんなに良くなかった感じがしません。むしろ悪くなってる感じです。自分はいろんな会で全国のいろんな方と話す機会があり、勉強もできるで、わが家はそんなに悪く感じませんが、全体を見るとど

うなんでしょう。

やる気があって勉強する人はこれからも良いと思います。が、そうでない人はこれからどうなるのでしょうか。合理化規模拡大は必要な事だと思いますが、小さい田舎の集落を守るにはある程度の人間が必要だと思います。地域を守っていくための小さい農家はこれから生き残っていくのでしょうか？

四十年前の田舎の生活ができればいいなと思うこの頃です。

高木さんはどう思われますか？

敬具

平成二十五年四月吉日

竹崎 修央（たけざき のぶお）

有限会社竹崎農園（高知県）

一九六八年 高知県安芸郡芸西村生まれ

一九八七年 タキイ園芸専門学校卒業

一九八七年 就農

現在（有）竹崎農園でナス、ピーマン、ニラ、シヨウガ、マンゴーを生産しております。



拝復 竹崎 修央様

東京も、目に青葉の爽やかな季節となり、街路では、色とりどりのつつじ、純白のゆきやなぎなどが咲き乱れ、移ろいの早さを実感する今日この頃です。

私も、三月八日のセミナーで貴兄にお会いし、その逞しさに圧倒されました。

私のふるさと群馬の田植えは、多くは五月連休明けですが、さすが二期作も可能といわれる高知ですね。

農業はそれぞれの地域の地理的、自然的条件を生かしながら行われるものですから、温暖な御地が今忙しい最中であることはよく分かります。

また、仕事以外の子供さんの活動の世話などは地域のつながりに大事なことですし、これに積極的に関わられるのは、正に私よりずっと頭もからだも柔軟な貴兄の特権だと羨ましい限りです。

十年前と今と比べて、農業がどうなったかというのは、どういう切口でみるかによって違うと思います。

農業全体をみる限りでは、農地も、人（特に就業者の平均年齢）も、生産額どれひとつとっても悪くなっています。一方、農業で自らの所得の大宗を稼いでいる方々（経営体）の数は四十万程度と横ばいですが、農業法人数は一万二千八百社と飛躍的に増え、一社当たりの販売額が億を越すものも珍しくなくなっています。

成功事例で共通しているのは、面積規模より需要を前提にした供給（加工）を行っているか否かです。難しくいえばマーカーケットの経営を行っているということでしょうか。

農業が産業として持続する経営が行えるようにする制度システムを構築し、集落に商工と連携する雇用の場を有する農業経営体が出来るようにし、貴兄が言われる「小さい農家

「も自ら農業を続けるか、（家庭菜園規模の農地を残して）貸すか、コストパフォーマンスから自らの先行きを判断する」ときではないでしょうか。

集落は、今でも老壮青、老若男女いろいろな職業の人で構成されていると思います。このような集落（農村）、地域環境（多面的機能）政策は、先ほどの農業経営政策とは基本的には一線を画した政策として展開すべきだと思います。それによって貴兄が望む十年前の田舎が新しい姿でよみがえると思います。

この考えを貴兄はどう思われるか、その回答を次回楽しみにしています。

平成二十五年四月吉日

敬具

高木 勇樹（たかぎ ゆうき）

一九四三年 群馬県生まれ
一九六六年 東京大学法学部卒後農林省入省。食品流通局砂糖類課長、大臣官房企画室長などを経て、食糧庁管理部長、畜産局長、大臣官房長、食糧庁長官など歴任。

一九九八年 農林水産事務次官、二〇〇一年退官
二〇〇二年 農林中金総合研究所理事
二〇〇三年 農林漁業金融公庫総裁、二〇〇八年同公庫退任
二〇〇七年 NPO法人日本プロ農業総合支援機構副理事長

現在、NPO法人日本プロ農業総合支援機構理事などの立場から、わが国農業・農村の活性化、食の問題の解決に向けた活動に尽力。

